

# 組合士 アラカルト

企業組合ビジネスサポート代表理事

うじまかずお  
牛嶋和夫さん

## 夢は北海道経済活性化の基盤づくり

### 中小企業サポートの専門家集団

企業組合ビジネスサポートは組合員数14名。代表理事を務める牛嶋和夫さんはじめ全員が、札幌市、函館市に居住する弁護士、税理士、公認会計士、司法書士、中小企業診断士など「中小企業の経営サポートを行うのに必要な資格保有者がほぼそろっている」という専門家集団である。

北海道最大の金融機関の銀行マンだった牛嶋さんは地元企業との付き合いも広がった。しかし、銀行は破綻。別会社で経営コンサルタントとしての人生をスタートさせながら、結果的にご迷惑をおかけすることになった経営者のみなさんに「何かご恩返しができないか」という思いを強くしていったという。

そこで、平成14年に企業組合ビジネスサポートを立ち上げた。その時点では自らは組合に専従することがかなわない状況だったが、「自分の思いで立ち上げた組合なら、自らが代表としての責任と役割を担わなければ、思いの実現は難しい」と、平成19年6月、「組合設立の原点に戻る」気持ちも込めて代表理事に就任、組合の再出発を図った。

ここで何よりも牛嶋さんが重視したのは「思いを共有すること」だった。企業組合ビジネスサポートという場で「何を

実現したいか」を一人ひとりの組合員と膝をつき合わせて話し合い、時にはメンバーの入れ替えも断行しながら組織固めを行っていった。その結果、「思いを一つにできる仲間だけが集まった」と胸を張って語る14人がそろったのである。

### めざす「思い」——その1 北海道中小企業の力になりたい

牛嶋さんがかなえたいと強く願っている思いは大きくは二つある。その一つは、北海道の中小企業が元気になるよう、力になりたいという思いである。銀行マン時代から「中小企業には実にさまざまな苦労が多いこと、その苦労に立ち向かう経営者はとても孤独なこと、そして、そういう苦労や孤独をどこにも相談する先がないこと。この二つが気になっていて」という牛嶋さんは、自分たちがそこをサポートしたいと力を入れている。

しかし、ひとたびサポートに乗り出すと、中小企業の実態はさまざまな問題、課題が錯綜している。それらにじっくり取り組むため、「営業的にはなかなか拡大は難しい」が、「拡大よりも理念をおささないことが第一」と経営姿勢は明確である。そのような姿勢がサポートを受ける企業経営者に大きな満足を与えていることは確実で、「おかげさまで、口コミ効果でサポート先はじわじわと増えて

きています」と手応えも感じ始めている。そして、「多くの中小企業への経営相談、販路拡大等の営業サポートを行って地域に貢献することが、組合そして事務局の経営基盤の強化になると考えています」と言う。

### めざす「思い」——その2 雇用の受け皿になりたい

中小企業を取り巻く経済・経営環境が厳しいことは全国共通だが、その中でも北海道経済の厳しさはひとしおだということのため、シニアをはじめ若手、女性にとっても、能力のある人材が働く場を得て、自らの能力を発揮していくことが難しい状況にある。牛嶋さんは、このような潜在能力のある労働力層に対して「当組合が雇用の場を提供できるようになれば」と考えている。むしろ、一朝一夕に実現できる夢ではない。「できることを見つけて実現していくのが組合の役割」と、時間をかけて雇用・人材育成の基盤づくりに取り組んでいく心構えである。

実際、昨年4月からは元気で有能な銀行OBを事務局長に迎え、「組合の営業活動の強化が実現できた」と言う。さらに今年の4月からは大学院卒の経営コンサルタント志望者1名を採用、現在、敏腕事務局長の指導のもと、「組合とは何か」から学んでいるところだという。そ

して、「このような事務局運営ができるのも、経理など業務全般を優秀な女性パート職員がカバーしてくれているからです」と牛嶋さん。雇用の受け皿へ向けての第一歩も踏み出し始めている。

### 組合士の可能性も広げたい

牛嶋さんが組合士の試験に合格したのは、組合を立ち上げるはるか以前の平成9年である。経営コンサルタントとして組合に出会い、自ら組合を勉強する中で、の挑戦だった。現在は代表理事として事務局職員たちにも挑戦を進めていると同時に、自らは北海道中小企業組合士会に参加、業種の異なる組合士仲間と出会っているところだという。

そのような交流と、自らの組合活動を通じて、「組合員のために相談相手になれるか、そこまで突っ込んでいくことが組合士のこれからの役割だし、それによって組合の存在意義も高まる」と考えているという。

その実現には、「組合士がネットワークを組むことが大切であり、組合士会をそういう場として活用し、互いに持つ知識を提供し合う。そうすることが組合士にとってもプラスになるし、それぞれの組合員にとってもプラスになると思っています」と指摘、その実現へ向けての活動にも少しずつ着手しているようである。

